

# 鹿児島医セン

連携室だより

2008. 1 No.22

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）



## 平成20年を迎えて

あけましておめでとうございます。

早いもので、平成も20年になりました。昭和最後の日、当時

の小淵恵三官房長官(後の総理)が次の年号を「平成」と発表されました。あれから20年、個人的にも齢を重ね、この間の出来事に想いを馳せています。平成は「内外、天地とも平和が達成される」という意味だそうです。しかし、平成になってバブル崩壊(H3年)、その後始末、改革、改革の痛み、国民が望むような穏やかな時は過ぎていないように思われます。平成の10年代最後の年、平成19年を象徴する漢字が「偽」となりました。政治家のスクャンダル、年金のずさんな管理、老舗の偽装、政、官、民ともに規範意識の求められる人達が「偽」をなし、なんとも恥ずかしいかぎりです。儲からなくともいい、愚直に、正直に生き、生活し、仕事をし、そんな当たり前が当たり前の平成20年代であって欲しいと願うばかりです。

当院は平成の始め、地域医療の中で、その役割が十分な認知されているとは言えない状況にありました。歴代院長は地域医療の中で本来の役割を果せるように「病院改革」を進めてまいりました。昨年までに、新病棟(西病棟)の新築、本館(東病棟)のリニューアル、外来部門の拡張、改装を完了し、病床は300床より370床となりました。62名の看護師を配置した16床のICUの設置、手術室の新築、CT、MRI、血管造影装置、生化学検査機器などの更新を行いました。昨年7月には病院の電子化を目指し、オーダーリングシステムを導入、その完全実施を目指した作業が今も続いています。今年の4月からはDPC(包括医療)適用病院になると考えられます。ハード面の改善のみでなく、医療安全への取り組み、感染症対策、クリティカルパスの推

進、栄養改善チームの活動など「医療の質」の改善を目指した地味な活動も合わせて推進してまいりました。

この間、当院は南九州中央病院から、平成12年に九州循環器病センター、更に平成18年には鹿児島医療センターと病院名変更を行いました。世間では「よ一名前を変えやっもんや」と言われました。しかし、当院は設立当初より、県民に「循環器とがん」の専門病院であって欲しいと望まれていましたので、設立25年にしてやっと本来の姿に立ち戻ったと言えます。

今後も「循環器・脳卒中・がん」診療を3本柱にして、急性期病院としての役割を果たしていきたいと思っています。平成18年には糖尿病・内分泌科、平成19年には心臓リハビリテーション専門医の赴任、今年度は臨床病理科が新設されます。本来機能の強化、周辺の充実などに取り組み、更に、病診・病病連携を進め、急性期病院としての役割に特化して行きたいと思っています。

「医療崩壊」と云われるほど医療を取り巻く状況は厳しくなっています。一旦、医療者の「意気」が低下してしまうと、そこから再建をしていくことは大変です。今年、これ以上の「医療崩壊」が進行しないことを願って、我々も努力していきたいと思ひます。

皆様にとって今年が幸多き年であること願っています。今年も宜しくお願いします。

平成20年1月 院長 中村 一彦



# 幹部年賀状



副院長 山下 正文

新年明けましておめでとうございます。皆様方には清々しい新春をお迎えのことと存じお慶び申し上げます。

さて、昨年は4月に一病棟をオープンし、フル稼働となりました。ICUの後方ベッドと位置づけましたので急患の受け入れもいくらかはスムーズになったのではないのでしょうか。また、7月からオーダリングを開始しました。当初は多々ご迷惑をおかけしたようですがようやく軌道に乗ってきた感じです。今年も地域医療連携室を中心に先生方と密に連携を保ちながらやっていきたいと思えます。

本年も引き続き皆様のご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



統括診療部長 花田 修一

明けましておめでとうございます。昨年は、休棟中の東4階病棟が心臓血管外科・循環器内科病棟としてオープンし、循環器、脳卒中、がんという3本柱での診療がフル稼働することとなりました。この病棟はICUの後方病棟としての役割もあり、9月までは救急患者さんの受け入れもスムーズに行きました。10月以降は入院患者数の増加に伴い、一部の救急要請をお断りせざるをえない状況も生じました。在院日数の一層の短縮や、地域の先生方との連携をさらに深めていく必要を感じています。

一方、遅れていたオーダリングシステムも導入され、外来予約制等一部混乱はあったものの大きな問題なく稼働することができました。『連携室便り』でもご案内して参りましたが、新規の患者さんのご紹介は、予約センターに事前予約をお願いできれば幸いです。まだまだ至らない点があるかと存じますが、本年もご指導、ご支援どうぞよろしくお願い致します。



臨床研究部長 城ヶ崎 倫久

新年明けましておめでとうございます。清々しい新年をお迎えの事と存じお慶び申し上げます。

さて、国立病院機構の病院は全部で146あるのですが、各病院の臨床研究の活動を評価し、公表している事を御存知でしょうか。つまり、国立病院機構が推進している治験、EBM推進のための臨床研究 競争的資金獲得額 特許・知的財産収入

業績発表、独自研究の項目について各病院の臨床研究の活動を評価・点数化し、毎年1番から146番まで順位をつけています。昨年は鹿児島医療センターの成績は全国で146病院中26位でした。今年も1つでも順位が上がる様に臨床研究に励んでいきたいと思えます。今年も鹿児島医療センターの臨床研究部をよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 濱田 陸三

明けましておめでとうございます。

皆様お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。昨年は暗いことばかりで過ぎたような一年でしたが、今年は医療界にも少しは良いことがありそうな気もしています。

昨年は当院連携室便り「鹿児島医セン」をご支援頂き有り難うございました。お陰様で毎月発行することが出来ましたが、今年もまた毎月お届けするつもりですので、昨年同様、診療の合間の息抜きなどにご利用頂ければ幸いです。

診療技術面からも医療政策面からも、医療界は大変換期のさなかにあり、私どもも対応に大わらわの状態ですが、こうしたなか地域医療連携室の役割も益々大きくなってきております。どうぞ今年もよろしくご支援の程お願い申し上げます。



## 登録医療機関紹介 第10回

## 今村クリニック

今村クリニックは、父が昭和36年に開院した今村外科を、私が引き継いだ後に改称したものです。同じ外科系とはいえ、私のもともとの専門は麻酔・集中治療であったため、表立って外科と称するのが憚られたためです。当初より「かかりやすい、便利な街のお医者さん」を目指しており、高血圧や糖尿病の患者さんもおできの切除や怪我の治療でみえる患者さんもあります。痛みに対する理学療法や神経ブロックも行っており、簡単な骨折ならギプスを巻くこともあります。胃の内視鏡もしますが、大腸内視鏡は従兄の運営する健三郎クリニック(登録医療機関紹介第6回参照)に依頼しています。これらの仕事を医師一人、看護師三人、マッサージ師二人、受付二人、それに事務長一人の合計九人のスタッフで行っています。今村クリニックは鹿児島医療センターまで歩いて3分という、まさにお膝元にあります。そのメリットは計り知れず、発症して30分位の脳梗塞を脳血管内科で治療していただき、後遺症もほとんど残さず治癒して、ご本人はもとより、家族からも大変喜ば



れたことがあります。私のクリニックでは複雑な診断や治療はできませんが、従業員一同、来院される患者さんの中に重大な疾患が潜んでいないか、常に鋭敏なセンサーでありたいと心がけています。専門的な対応が必要な患者さんがいれば、直ちに鹿児島医療センターをお願いいたしますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

院長 今村 勉

## 手作りティーパーティー

栄養管理室

ウフッ!今日はケーキとコーヒーお腹一杯食べちゃった。しあわせ……。それを聞いた私は真っ青です。何か食事制限のある人ではなかったかしら?

約1ヶ月前から調理師長はじめ皆で構想を練り準備するのに大忙しの日々だったのです。

安く上げようと、それぞれが役割を担い、材料の発注、買い物係り、白菜ツリーの作成、300個のケーキ・ピザ生地作り、果物の飾り切りまで日頃のパタン化された切り方と異なり自分の腕をここぞとばかり発揮する調理師達。栄養士も総出で最初から最後まで全て手作りで日常業務と平行しながらでしたので栄養管理室も猫の手も借りたい忙しさでした。それなのに後から心配がついてまわりました。

しかし会場での患者様は誰一人として、痛がったり、難しい顔をした方はいらっしゃいません。蒸しバ



ンや果物などを頬ばったり、白菜ツリーからチョコレートを取って口に運んだり、飲んだり食べたり皆、笑顔・笑顔!音楽を聴き、かわいい園児達や職員の踊りを見た後の短い充実したティータイムになりました。

# 2007 鹿児島医療センタークリスマスコンサート

クリスマスコンサート実行委員 東 幸代



## はじめに

鹿児島医療センターのクリスマスコンサートも、毎年、恒例となりました。今年も、病院の職員による実行委員のメンバーが入院中の患者様やご家族の皆様に喜んでもらおうと、企画し、検討を重ね、綿密な準備を行ってきました。本音としては、開催できたことにほっとするところでした。実行委員長の中島先生を中心に、職員の有志によるメンバーを構成し準備ができました。

毎年、附属の看護学校の学生も自主的に申し出てコンサートを支えてくれます。今年も、20名以上の学生ボランティアがあり大助かりです。

## コンサートのはじまり

患者様やご家族の方で会場いっぱいになりオープニングを迎えることが出来ました。

実行委員長の中島先生の挨拶では「鹿児島医療センターのクリスマスコンサートと一緒にいられたことを喜びに変えて、入院治療を、私たちと一緒に頑張ってください。」と力強いお言葉でした。それ以上に、普段の診療とは違い、ナイスなファッションで会場内では中島ファンが増えたと思います。又、お忙しい中、時間を作っていただいた院長先生には、私たち職員の患者サービスへの精神にお顔をほころんでいたようです。

社会人のメンバーで構成されているサザンウィンド吹奏楽団の皆様には毎年ご協力頂いています。

指揮を担当して下さる末広隆様の案内で「情熱大陸」「負けないうで」「クリスマスソングメドレー」など、軽快な演奏に会場から手拍子や大きな拍手でした。

## かわいい子供たちも参加

病院内にあるつくし保育園の園児さんたちも、クリスマスコンサートの為に、踊りと歌を練習し、「あわてんぼうのサンタクロース」など精一杯頑張ってくれました。元気な声で「メリークリスマス」の発声に、会場から「可愛い、可愛い」と和まれました。サンタさんからのプレゼントに「ありがとう」と笑顔で答えて嬉しそうです。私たちまで癒されます。

## 懐かしい島うたが聞けました

今年は、特別ゲストで、しまうたのしげ×しげのユニットの方も協力いただきました。お二人は、結婚式や宴会などで島うたを披露し、病院や福祉施設などでも活躍されています。着物姿で登場し懐かしい歌に聞き入っていました。

最後には、サザンウィンド吹奏楽団の演奏と一緒に「涙そうそ

う」を披露していただき感激でした。

## 職員も頑張りました

連日、仕事を終えてから、先生方や新人の看護師(中には中年以上の看護師も数人おりました)は、ビリーのブーツキャンプの特訓でした。除隊者がなかった事は幸いでしたが、初心者ばかりのメンバーで、ユニホームは揃えました。はたして、本番は大丈夫かと心配でしたが、本番に至っては、度胸で何とかクリアできました。会場から大きな拍手をいただきました。ホットでした。当院では、研修医の先生方はクリスマスコンサートへの参加は必須となっております。さすが、優秀な先生方です。本気で頑張っていました。

## 最後に

コンサート終了後、参加者の方から「元気を貰いました」「100歳まで生きられそうです」「参加してよかった」等、喜びの声をいただきました。一緒に写真を撮ってくださいなどの要望もあり、職員一同、頑張ったと実感です。病棟には、参加できなかった患者様もおられますが、受持ち看護師が、心を込めてクリスマスカードをお渡ししています。クリスマスコンサートの開催に向けて、鹿児島医療センターの職員の頑張り、と、快く引き受けて下さった演奏者の方々の協力で大成功です。感謝・感謝でした。



## お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号  
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246  
http://www.kagomc.jp  
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福  
直通電話 ▶▶ 099-223-4425  
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

